

球技大会は楽しかったか？

3月7日生徒会主催の球技大会が実施された。今回は、極力生徒会自身の手で企画・運営するという方針であるということを事前に聞いていた。イベントごとの企画・運営は、傍から見ているほど楽ではない。やってみて初めてその苦労がわかるものだ。まずは安全安心に実施する環境を整えるところから始まる。コート配置、隣のコートとの距離、用具の点検など様々だ。応援する場所の確保も必要だ。そして、時間の管理。楽しいことだからと言って闇雲に長くかかるような計画では失格だ。定められた時間内に決勝までの試合が組めるような計画を立てる必要がある。そのためには、ルールを定めなければならない。各競技にはそれぞれ固有のルールがあるが、それとは別に、球技大会として行う上での校内ルールが必要になる。それらをわかりやすく、また正しく伝わるように明文化し、要項として配付し、説明しなければならない。そんな準備と共に、当日の運営がまた大変だ。計画通りに事が運ぶことなどよほどのことがない限り難しい。計画通りに進まなかった時、トラブルが発生した時、臨機応変に適切な対応ができるかどうかという点も大切だ。

それらを踏まえて、今回の球技大会はどうだっただろう。

少なくとも私の眼には、うまく運営されていたように思う。担当されている生徒会の顧問の先生方は「自分たちでやった方が楽し、うまく進むだろう」と仰っていたが、そこを敢えて生徒会にさせてみるという挑戦をされた。その挑戦が素晴らしい。そして、それを受けて自分たちの手で学校行事を企画・運営することに挑戦した生徒会もまた素晴らしい。

「挑戦は上手くいけば自信になるし、失敗しても次の糧になる」という考え方を実践してくれている姿がありがたい。

そして、それに協力する姿勢を感じさせたのが、生徒の皆さんだ。出場している人、応援している人、どの生徒を見ても、その競技に集中してプレーし、応援し、選手の一挙手一投足に注目していた。球技大会そのものを楽しむ雰囲気があった。誰一人として、足を引っ張るものがいなかった。

それとともに、学校行事っていいものだ改めて感じた。コロナで制限が多かった時期から、ようやく少しずつ光が見えてきたような感覚だろうか。生徒の皆さんの笑顔が印象的だった。

生徒会の皆さん、生徒指導部の先生方、運営に携わってくださった先生方、そして、全ての生徒の皆さんに「ありがとう」

進級おめでとう！

3月7日、1・2年生の進級を協議する進級認定会議が行われ、1年生119人、2年生116人の進級を認定した。何人かは学習の成果が認められない科目があり、追認考査を受けてその試験に合格して修得する必要があるが、規定により、全員の進級は認定された。「進級おめでとう」

その会議の資料の中に、履修（りしゅう）について問題のある生徒の一覧を記す部分がある。履修というのは、出席時数が規定を満たしていることを認めるもので、その上に学習の成果が認められて初めて修得という状態になる。修得というのは言い換えると、単位を認められたということだ。例えば、「保健」は週に1回あるので、1単位ということになる。

その履修の欄には、欠席が多い何人かの生徒の名前が毎年掲載され、認められれば足りない分の時間補充を行うことになるのだが、私がこの仕事に就いて37年目に初めて、その欄に一人も名前が書かれていない会議資料を見ることとなった。

欠席時数が規定よりも多い生徒が全くなかったのだ！！

生徒の皆さんの努力と保護者の皆様のご協力、そして先生方の日頃の努力の成果が数字となって表れたということだ。

不登校ゼロの高校、これもいい響きだ。

「困っている人に手を差し伸べられる生徒、自分が困った時に周囲に声をあげられる生徒」になってくれていたら嬉しい。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩